

令和4年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和4年10月12日（水）

地 区 勇払地区

会 場 勇払総合福祉会館

〈意見交換〉

◆市民 勇払自治会の■■■■です。

まちかどミーティング要望事項の2のほうについて、ちょっとお願いをしたいと思います。

命山、築山の造成もお願いしたいということで要望したんですが、答えとしては、築山も含めて、効果的な、効率的な対策を検討してまいります。検討していただくということで、それはそれで結構なことなんですけども。なぜ、勇払地区で命山を要望したかということ、四、五年前ですけども、私、ちょっと旅行をしたときに、静岡県袋井市というところがありまして、浜松市の隣の町なんです。そこに江戸時代に高波の対策として命山というのをつくったという、そういう話があって、それを興味を持って見に行き、それを、パンフレットを持ってきたんですけど、袋井市は、4つの命山と1つの避難タワーを準備してるんですね。それで勇払地区を見ますと、以前のハザードマップでも、ほかの苫小牧市の地域よりも浸水深が高いということでございます。今回ハザードマップ、その浸水時の高さが広がっているということで、ほかの地区よりもかなり条件的には最悪かなというふうに思っているわけですね。それで、なおかつ勇払には、最近夏場にはキャンプの人が来ているんですね。それから、マリナーもあって船もあるし、仕事で来る方もいらっしゃるし、外部の方も結構たくさんいらっしゃるんですね。

それで、勇払地域住民には、勇払小学校と勇払中学校、それから日本製紙のアパートなど、避難箇所を一応周知されているかと思っておりますけども。ほかからいらっしゃる方は、なかなか避難場所は分からないんじゃないかということで、そういう命山も、すごく目立つようなものを一つ造っておけば、ほかから来た方でもすぐに避難できるでしょうし、それから、費用的な面も、昨今、国のほうも補助率を3分の1から3分の2に上げたということもありますし、道のほうにも何とか要請すれば、私は、平成二十七、八年の袋井市の経費は、命山1つ、3億数千万ぐらいですね。今はもっと、ちょっと高くはなるでしょうけども。苫小牧市としての持ち出しとしては、かなり少なくなるんじゃないかと思っておりますので、ぜひ勇払地区に、ひとつモデルとして、命山といたしますか、築山、これを設置していただきたいと思っておりますので、よろしくご検討いただきたいと思います。以上です。

○司会 ありがとうございます。事前要望の2番に関することなんですけど、市のほうから回答、お願いいたします。

◎危機管理室長 防災を担当しております危機管理室の前田でございます。ご質問いただきましてありがとうございます。■■■■には、8月の地域別の津波説明会の際にも、築山のことをご紹介いた

きましてありがとうございました。先ほどのテーマプレゼンテーションの中でもお話しさしあげたとおり、私どもといたしましても、この地域、津波対策としては大変重要でありますし、非常に厳しい地域だということは、これは平成24年以来、このことは認識をした中で取組を進めてきたところでもあります。これからもその認識の下で様々な取組を進めていこうとは思ってはいるんですが、まずは、先ほどご説明したとおり、ソフト対策というのを最優先で進めさせていただきたいと思っております。その上で、この後は、先ほどの改正案出てきた示しがありましたけども、やっぱり津波の困難なところに対して、どんなことがハード対策でできるかということも、これも考えていきたいというふうに思っています。ちょっと段階を踏みながら考えていきたいというふうには思っております。その中には、今■■■■からもお話ありましたビルだけではなくて、山という方法もあるんじゃないかというご報告もありましたので、そういったいろんな可能性を、いろいろと検討させていただきたいというふうに思っております。そこは、先ほど中長期というお話しはしましたけども、できるだけスピード感は持っていきたいというふうに思っておりますし、その検討の過程では、町内会の皆様方とも、適宜お話をさせていただきながら、どんなソフトが一番いいのか。あるいは、今お話あったような地域住民の皆様だけではなくて、ここに来ている観光客という視点のお話をいただきましたので、そういったことも踏まえて。いずれにしても数百年から1,000年という想定という中で、どんなことができるのかということは非常に重たい課題となっておりますので、そこは先ほども申し上げたような一定のスピード感を持ちながら、そして皆様のお話、意見交換もしていきながら、最善の方法を模索していきたいと、ちょっと漠然とした、漫然としたお答えで非常に恐縮ですけども、そういった意識を持って、今後も取組を進めていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。それでは、ほかにどなたか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇払自治会の■■■■です。よろしくお願いします。

今ほど■■■■のほうからも質問で言われました津波避難の施設ということに関連して、お願いしたいと思います。これは、質問ということではないんですけど、先ほどの津波浸水想定のご説明の中で、これはどこの自治体もこういう説明をするんだと思うんですけど、3ページ目のところの北海道からの検討の中に、数百年から1,000年に一度発生するレベルの津波という表現があるんですが、これ正直、普通に聞くと、1,000年に一遍とかそんな頻度だったら、あまり、今このようなあまりでかい地震なんて、すぐ来るわけないから。何かそんなイメージに捉えられる。要するに、その捉えた人の危機感が、その言葉からはなかなか伝わらないんじゃないかと。要するに、これを言ってるのは、1,000年に一度はあるかないかの大津波が、この苫小牧市の18%ですね、これを飲み込むだけの津波が来るんだぞということまで付け加えないと住民の危機感情というのかな、なかなか、おおっというふうにならないんじゃないかな。ただ、だから、ここだけ聞くと、大変だなと僕らも分かるんだけど、何かこの年だからそんなことばかり考えてればいいんだけど。若い人は、なかなかその言葉だけで捉えてしまえば、1,000年に一度というのは、生きていうちは来ないかなってなっちゃうんですね。これは、またちょっと、せっかくこうやって市が一

生懸命やってるのを使わないのはもったいないかなと思うんで。この辺は、別に要望でも何でも無いんで。

もう一つは、同じく先ほどの説明の中で28ページのところに、ハザードマップの改定スケジュールという部分もございまして、この3つ目のところに、マップ完成後も新たな津波避難施設の整備等に合わせ随時見直すと。先ほど、前田さんからお話ありましたが、■■■■のご質問に対して、築山も含めて、避難施設をこれからも検討しますよということでした。このマップ完成後もということ、マップ完成後、新たな津波避難施設の整備というのは、まだ今回のマップの中に示されてないということですよ。例えば築山も検討しているんで、まだ真っさらな状況、例えば避難タワーも仮に建てるとすれば、それも、何もどこにも出ていないということなんです。そうすると、これが例えば市で、お金のめどもついて、いつ頃造れるぞといった段階で、初めて目にするかどうか。正直言うと、それだと、なかなか生きる希望って言ったらおかしいけど、避難する希望がね。正直、勇払で小学校まで、中学校まで行けやと言われても、いやって思う人たちがいるんじゃないかなと思うんです。だから少なからず、この辺には、今こんなのを計画してますよ。ただ、いつ造れるかはそういう財政的な問題もあるんで。ただ、市としては、そこに造っていききたいという、そういう実現するとは言えないんだけど、市としての意気込みみたいなのを、どこか何かこういうマップに載せてもらえると、住民としては元気が出るかなという気はするんですけどね。それは住民全員が満足するとは思わないんだけど、少なからず、やっぱりこの地域に対しても、どこの地域に対してもそうだと思うんですけども、市としてはこういうことを考えてますよということ、ある意味で国に対しても道に対しても、のっけていくというのはあっていいと、そういうふうに思いますんで。そういう気持ちももっともこういうもので表して。我々もそうだよなという、何かそういう後ろ盾があればいいかなと思うんで。だから、その辺は、それでちょっと意味としては、質問としては、整備に合わせて具体化したらマップを配りますよということなんですかという質問なんです。そういうことでよろしいですか。以上です。

○**司会** それでは、ハザードマップに関する質問なんですけれども、市のほうで回答をお願いいたします。

◎**危機管理室長** ご質問ありがとうございました。危機管理室、前田のほうで、1番目のほう、ちょっと答えさせていただくと、質問ではないとおっしゃっていただいたんですけども、ちょっとその辺の愚痴めいたお話になるかもしれませんが。今皆様、お話のとおり、この想定をどのように伝えるかというのが非常に難しい問題なんです。すぐ起こるかもしれないというところではなくて、今回、科学的に想定できる最大、最悪というのが、今回、国、北海道のほうでシミュレーションしましたというのが、今回の想定なんです。じゃあ、そのことをあまり大きく言ったときに、ちょっと今度、我々が心配しているのは、初めからもう諦めてしまう、こんなもの来ちゃったらもう間に合わないというふうに思われることも心配をしております。

一方では、今■■■■さんがおっしゃったとおり、そんな1,000年に1回だったら、全然気にしなく

てもいいんじゃないかという。確かに、この辺のさじ加減、非常に我々も悩みながら、どういう表現がいいかなということで、お話をさせていただいているのが実態ではあります。私たちとしては、今日、このまちかどミーティングでこのお話をさしあげましたけども、やっぱりその地域を中心になりますが、これからこういうご説明、今日はこの20分強という時間の中でのご説明いたしましたけども、いろいろとこれからこの中身を全部詳しくお伝えする機会もいただければと思っておりますし、この間、コロナ禍の前は、私どもも防災出前講座ということで、ずっとこの場でお話をさせていただいたこともありましたので。そこは、やっぱりキーワードは皆様との意見交換ですとか、連携ですとか、そういうことをしながらより正しい知識を持っていただけるように、そして我々の思いを伝えていくようにということをしていきたいと思っておりますので。今日は、こういったお話をさしあげましたけど、これから、またハザードマップができた後も、出前講座ですとか、訓練ですとかということをしていながら、どこまでのことが皆様の中でできるかということと一緒に考えていきたいというふうに思っておりますので、ちょっとまた漠然としたお話で恐縮ですけども、1問目に対するコメントは以上でございます。

◎**市民生活部長** こんばんは。市民生活部で部長をします野見山と申します。2つ目のほうのご質問ですけども、今ハザードマップの中に今後考えている避難施設、築山も含めて、こういう形を考えているぞということを意気込みも含めて示したらどうかという趣旨かなというふうに思いました。ハザードマップにつきましては、先ほども■■■■のほうからもお話ありましたが、外部の方も含めて地域の方が見ていただいて、どこに避難をしてよいかということをお示しを分かっていただく、あるいは経路、どの経路を使って逃げるのが最短なのかというものを示す位置づけとなっております。したがって、先ほどもスライド、それから前田のほうからもご説明申し上げましたけれども、やはり今あるものを中心に載せるべきであろうというふうに考えて、今作業を進めているところでございます。ただ、地域の皆さんもこれからお話し合いを進めていく中で、やはりここは避難が難しい地域であるということは私どもも認識をしております。これから市で、いろいろと地域の皆様とお話をしていく中で、新たな避難施設というものも考えていかなければならないということになります。それは、また別のもので、その計画というものは立てていくという形になりますので、その中で、ぜひその部分というものはお示しをさせていただきながら、そこで市の意気込みというか、考えているところも皆さんと一緒にディスカッションしながら考えていきたいというふうに思っておりますので、ご理解をよろしく願います。私からは以上です。

○**司会** よろしいでしょうか。

◆**市民** はい、結構です。

○**司会** それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆**市民** ■■■■といいます。昨年ですけども、市の危機管理室に、津波のことで提案したことが2度ほどあるんですけども、そのときの考えとしては、今ここで話しされたようなことなんですけども、やはり当時と今は大分考え方も変わってきていると思います。二、三日前にちょっとラジオで聞いたんですけども、釧路のほうでは、以前の対策とは比べものにならない、長い、そのくらい危

機感を感じてやっていると、そういうことを伺いました。それで、先ほど言いましたように、危機管理室の人と話したんですけど、当時はやっぱり10メートルの津波想定される。そういうことは、一般的にないとは聞いていたんですけど、その10メートルの津波が、陸上にはしるまでに約5メートルになる、その波、どこまでいくか分かりませんが、5メートルといたら、さっき言ったように、奥の市の出張所の1階の屋根、2階、多分行くよね。そういうことで、やはりさっき説明してたように、半減されているんだけど、それがどこまで高さの波で行くのか。勇払というのは、海拔、自分のところは2メートル、ちょっと西側へ行くと3メートルのところもあるんだけど、それを高低差というのは、どの程度津波の新たに变化していく、そういうことはやっぱり分からないという。それで、■■■■からお話あったように、安平川に以前に津波が来た経験があると。それが何年前なのか、1,000年前なのか、そういうことが分からないままに1,000年に1回か、何百年に1回かということで、今こういうふうに分心しながら聞いているんだけど、あまり、来る来ると言われると、本当に来るんだなど。そういうようなことで、心配することはいいんだけど、あまり立てるようなことであっても困ると思いつつながら。やはり地域としては、情報というものは流さなきゃいけないと思います。

それと、これはちょっと津波とはかけ離れてる、ちょっとあれなんですけども、市長、私、いつも思うんですけども、勇払というのは、苫小牧発祥の地ですよ。それは、さっきも挨拶があったように、勇払が何か一番最後、まちかどミーティングね。

◎市長 順番。

◆市民 ええ。

◎市長 いや、最後じゃなかった。

◆市民 いや、今回、最後という。

◎市長 いや、まだ来週まであります。

◆市民 あるんですね、すみませんね。そういうことで、もう少し勇払という地区を、やっぱり苫小牧市の中では、一番に考えてもらいたいというのは、やっぱり津波のこういうハザードマップを見ると、イの一番に大きな被害が来るのは勇払なんだということを考えていってもらいたいなということで。勇払、苫小牧市発祥の地だということを、自分は自負するんだけど、ということで、とにかく勇払というものを頭に入れてほしいと思います。

○司会 ありがとうございます。前段のほうは、津波の高さの考え方についての話と、あと2つ目が勇払について、市の中で一番に考えてほしいというようなご意見かと思いますが、市のほうで回答お願いできますでしょうか。

◎危機管理室長 津波の関係のお話でございましたので、危機管理室、前田のほうからお答えをさせていただきます。まず、津波の高さ、到達ということなんですけれども、まさしく、それをいわゆる北海道のシミュレーションの下で、分析したことは、今日皆様のほうに、A3判のハザードマップが。津波って波ではなくて、例えば9メートルなら9メートルの高さの水の塊がずどんと陸に来るわけです。そうすると、外の地盤、例えば3メートルであれば、津波の高さが8メートル

だったら、3メートルの地盤などについては、5メートルぐらいの高さの波がそのまま届くというようなイメージになっていまして。そこに地形ですとか、そういったものも全部盛り込んで、ここまで波が到達するよねというものを色分けにしたものが、今皆様にお配りをしたA3の図面になっておりますので、今■■■さんがお話になったようなことを盛り込んだ、色分けをしたものだというふうにご理解をいただければと思います。

それから、もう1点の、過去にそういう安平川のがいつあったんだというお話がありました。これ、先ほど■■■さんからの話と、またちょっと出てきますので。どこまでそれ言おうかなと思っただ中で、ちょっと詳細は、割愛したんですけども、安平川も、これ一、二キロ導入の部分で津波の痕跡が認識されてます。これは1611年です。1600、今から400年ほど前ですね。4000年ほど前に、そういう安平川の一、二キロ上流のところに津波の痕跡があった。同じような痕跡が同じ時代の地層で東北にもあるんです。崖ですとか、あるいは森のほうにもあるんですね。それを一遍に再現するような科学的なシミュレーションをしたら、今回も同じものになると。ちょっと、そこまで細かい話をすると難しいかなと思っまして割愛はしたんですが、400年前にそういったようなことがあったことは事実です。ただ、それがどのぐらいの周期でやってくるかというのは、まだ日本の科学の中でもはっきりはしていない。ただ、あったことは事実ということは、また次来る可能性がある。だから、我々はこの想定に対して、できるだけの体制を取っていきたいというようなことで、今取組を進めているところになっておりますけど、そんなようなご説明ありましたが、よろしいですかね。よろしく申し上げます。

○司会 それでは、今マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇払■■■の■■■と申します。6番の問題でちょっと質問をしていただきたいんですが、歴代の市長さんが、勇払は陸の孤島にはしないと約束をしていただいたというのは、これはもうずっと私、勇払に来て67年になりますけども、そういう話を聞いてきたんですが、どうも、もう今は年寄りばかりで若い人というのはあんまりいない。本当にどうしたんだろうなというところなんですけど、活気がないですね、年寄りばかりで。家があっちこっち、もう惨たんたるものです。もう売りに出される、土地は売り出される、たたかれる。そういうことであるんですけども、一向に対策は講じられてないんでないかなというのは、私も独り相撲かなと思いますけども、やっぱり勇払を陸の孤島にはしないと公約といたらおかしいんですけども、こういう約束をしていただいたんですけども、一向に。今はもう諦めの段階でないかなと思っておりますけども、これについて、市長さんに、一つ話をさせていただきたいと思います。

◎市長 苫小牧市の町の歩みとしては、ご案内のとおり、この勇払に八王子千人同心が入植して、そこが町の起点という位置づけで今日まで来ています。ですから、そういう歴史的な事実を次の世代にもしっかりとやっぱり伝えていかなければならない、そういう意味で苫小牧の町の歩みにとって、この勇払という、非常に特別なところだということは事実であります。そういう観点で、今ただ、歴代の市長が陸の孤島にしないと。でも、そのとき、まさか日本製紙が生産中止にするということは想定できなかったと思います。時代の変化とともに、これは身内だけのことではありません

が、そういう事実があり、その上でも何とか少しでも住民の皆さんに希望を持ってもらえるようなまちづくりができないかということやってるつもりです。大変恐縮な話に聞こえるかも知れませんが、僕は市長になってから、例えば勇払、例えば植苗、例えば樽前、ここをやっぱり大事にしなければいけないという考え方でやってきているつもりであります。これは僕が市長になる限り、そういう考え方でこれからもいきたいというふうに思っていますし、小さな、いろんな今までクレームもありましたけども、そこは優先的にやっていく努力をしたし、マリーナの問題のときもそうでしたし、やっぱりやっているつもりであります。しかし、日本製紙さんの問題だけは僕も全く想定していなかったことでもありますので、住民の皆さんのそういう思いということは理解をしていることであります。しかし、限られた中で少しでも住民の皆さんが、あるときはにぎわいを求めたり、あるときは、何かもう少し若い世代が住んでもらえるような地域づくりができないかという、今おっしゃってございましたけれども、そういう思いに応えることは、やっぱり考えてやっていかなければならないというふうに思いますが、しかし、これはなかなか難しい問題だなというふうには思いますが、引き続き、この勇払の問題については優先度を高く、できることはすぐやるという思いで、これからも引き続き頑張っていきたいと思っておりますので、何かあったら、ぜひ声を届けていただければというふうに思います。この気持ちだけはぜひ理解していただきたいと思っております。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇払自治会の■■■■と申します。私、勇払のパークゴルフ同好会の役をやっておりますが、■■■■のほうからちょっと質問を頼まれてまして、鹿対策に関して、各家庭、皆さんもいろんな被害を受けていることは、もう、ここ何年間も続いておりますが、パークゴルフ場は何年かかけてネットを高く張っていただいたおかげで、ここ数年はちょっと鹿の被害は、糞ですね、それは少なくなってきたと喜んでおります。今年ちょっとカラスの被害が多くて、そちらのほうで四苦八苦はしておりますが、全体的に苫小牧市で、鹿対策の予算を立ててると聞いております。その中で、パークゴルフ場はそうやってネット張っていただいて改善された部分もございますが、市全体として、その予算の中で何かすごく役だったとか、いろいろやってよかったとかというお話が聞きたいなということで、■■■■から頼まれてきましたので、お聞かせいただきたいと思っております。お願いいたします。

○司会 ありがとうございます。ただいま、市の鹿対策についてご質問いただきましたので、お願いいたします。

◎環境生活課副主幹 環境生活課の高坂といいます。どうぞよろしくお願いたします。今年度、我々も鹿対策というのは、非常に重きを置いて対策を講じてきているところではあります。抜本的対策としては、やはり捕獲数を増やすということも一つかなというふうに思っております。実は今年度、新たに市街地周辺のほうになるんですけども、市のほうで独自に、これまでは対策、農業被害ですとか、北海道のほうの捕獲ですとか、そういったものを行ってきたんですけども、今年度は市でも新たに市街地周辺で捕獲事業というものを予算をかけて新たに実施しようと、こ

の冬行おうというふうに考えてございます。

そのほかに、やはりこの地区、沼ノ端から勇払にかけての市道、それと苫東厚真に向かう火力発電に向かう市道で、やはり交通事故が非常に多い地域になります。胆振管内でも、苫小牧もやはり交通事故、鹿の事故というのは非常に多い地域になりますので、その部分には予算をかけて、より鹿の発見を早めるために、また、鹿の活動が活発になる時期に道路脇の草を早めに刈って、鹿がやはり飛び出してくるものを早めに見つけていただいて、人間側のほうが鹿の行動みたいなものを見て、交通事故を未然に防げるような対策だとかも、新たに予算づけして対策を講じていこうというふうに考えているところでございますので、まずは、そういった対策をいろいろな多面的に取り組みながら、鹿対策というのを引き続き講じてまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 ■■■と申します。勇払は、子供の人数の割には公園がたくさんあるような気がします。使っているところの公園はきれいなんですけども、全く使っていない公園はもう草がぼうぼうで管理されていない。人数が少ない、使っていない公園をこの後どのように市のほうで考えているのか知りたいです。

○司会 ありがとうございます。ただいま使っていない公園についてということで、ご質問いただきましたので、回答のほう、お願いいたします。

◎緑地公園課長 公園の管理を担当しております緑地公園課、成田と申します。よろしくお願ひいたします。公園の使われ方、使われていない公園の扱い、様々ございまして、こちらのほうの地区にも使われていない公園があるかと思えます。私どもとしては、市内全域を見渡した中で、非常に市内、公園が多いまちでございますが、今後に向けましては、公園の機能の集約と申しましうか、例えば使われていない公園があるとしたら、そちらに遊具をいっぱい置くのではなくて、例えばもっとほかのところに、逆に、そこに広場としてだけで、遊具はないんだけど、ほかのものは充実させるんだとか、めり張りを持った対応をしていかなければならないところで、今検討を進めているところでございました。これは、公園の機能の統合化だとかということで、配分だとかということで、今計画を進めているところでございます。やはり、こちらについては、当然、地域の方々とお話合いが非常に必要になってまいりまして、例えば、今ある公園に遊具を充実させていただきたいだとか、また、こちらになくていいんだけど、あちらのほうに充実させてもらいたいというようなお話をもちながら、公園の在り方というのを皆様と一緒に考えていきたいというふうに思っておりますので、ここで、今この辺の話は、苫小牧、スタートしたばかりで、なかなか具体的な話に今この場でお示しできないんですけども、ここに向けましては、そういった地域との協議を持って、公園の在り方というのを一緒に考えていただければというふうに考えてございますので、ご理解のほど、お願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 私、勇払■■■に住んでおります■■■と申します。ちょっとこの質問は場違いかなと思うん

ですが、一言述べさせていただきます。私は、老人クラブの活動をしている1人であります。業者が公園掃除、草刈りに年間入っていると思うんですが、それが公住のほうでも何日か前に予定が貼ってあるんですが、実は、老人クラブで公園の縁石とか、公園掃除を年間きちっと予定で動いております。ところが、私どもがその予定がはっきり把握できないので、ダブって、掃除の後に入ってきたりすることが多々今まであったんです。ですから、私どもの会長のほうにそちらの公園の業者の予定が立ったら、ファクスなり何らかの連絡をいただければ、私ども1か月分の予定を組み込んで、きちっといろいろな予定も組み込みみたいと思うので、その予定が決まり次第、できればお手数ですが、私どもの会長のほうにファックスでも何でもいいですから、事前に電話をいただけたら大変助かるんです。本来は、会長と私が個々に公園のまわりの人に聞きにいけばいいんですけど、今雑用がいろいろありまして、できればお願いしたいなと思って、この場をお借りして、何とかしていただけたら幸いです。以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいま草刈りですとか、掃除ですとか、そういったもののスケジュールを老人クラブのほうに知らせてもらえないかというようなご質問だと思いますので、回答のほうをお願いいたします。

◎住宅課長 住宅課の南川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。日頃から、そういった地域の掃除ですとか、そういった景観を保つような活動をしていただいていることに感謝の言葉しかございません。確かに、これをいただいたとおり、こういった情報を密にお互いやり取りすることで、当然無駄な作業といえますか、重複した作業を止められますので、早速あした職場に戻りましたら、勇払さんに限らず、そういった情報提供を各地域にできるような体制を考えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

◆市民 どうぞよろしくお願ひいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 すみません。勇払■■■■の■■■■です。ここに出席すると言ったら、住民の皆様から幾つか質問を取りまとめることになってしまいまして、ごめんなさい、1人1個と聞いたんですけども、若干数を上げさせていただきます。

1つ目ですが、JR勇払前のスクールゾーンになっている場所、こちらの立ち木、沿道に生えている立ち木が、子供たちが歩くにはちょっと見通しが悪いという意見をいただいております。立ち木の低い場所の枝の剪定をしてほしいということで、要望を受けております。これが一つですね。

もう一つが、防災無線が聞こえませんよという意見です。これは、私の勇払駐在所もそうなんですけど、無線が全然聞こえません。何か聞いたところによると、四角い箱みたいな各戸に置ける防災無線があると。しかるに在庫をいっぱい抱えてるにもかかわらず、何か3,000円取って貸し出してやるよみたいなことになって、これはいかなものかということでお話を聞いております。3,000円は3,000円でいいんですけども、買うんだったら、私もちょっと買いたいぐらいで。防災無線、全然聞こえないんです。これが2つ目です。

3つ目は、ちょっと途中でお話が出てきましたけども、鹿の関係ですね。これは僕が質問、1個持ち込もうと思っていたもので。苫小牧市はもう全道一だよと、鹿事故ですね。勇払が、苫小牧署の中で一番鹿事故の多い署で、勇払はその中でも一番です。全道一鹿事故の多い地域なんですね。その中でも一番というのは、火力発電所に向かう道路です。ここが、だから要するに全国で一番鹿事故の多い道路ということなんですね。その前までは、沼ノ端に向かう市道もかなり多かったんですけども、さっき説明のあった、草刈りが行われてものすごく減りました。弁天も、その道路もやってくれているんですけど、こちらは減りません。なぜかという、草を刈ってる幅が間に合っていないんですよ。見通しも悪い上に、木が多いこともあって、見通しが。せつかく刈ってくれているのにあまり役に立ってないというので、個人的にはもっと深いところまで草を刈ってもらうのは、お金かかるから難しいとは思うんですけども、ワイヤロープだとかガードレールを設置していただければ、とても助かると。これは、ぜひとも、自分で持ち込もうと思った質問です。以上です。すみません、たくさん。

○司会 ありがとうございます。3点ご質問いただきまして、スクールゾーンの立ち木で見通しが悪いという、立ち木の剪定についてと、2つ目が防災無線の関係で聞こえづらいという点、3点目が鹿の関係で、火力発電に向かう海岸線の道路の草刈りしていただいているんですけど、幅がちょっと少ないというような趣旨だと思います。以上の3点について、回答のほう、お願いいたします。

◎緑地公園課長 緑地公園課、成田と申します。よろしく願いいたします。私のほうから、先ほどのスクールゾーンの立ち木の剪定のご要望ということで、こちら後ほど、ちょっと場所のほうを詳しく伺いさせていただきます、対応を考えたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆市民 よろしく願いいたします。

◎危機管理室長 2点目の防災無線の関係のお話は、危機管理室、前田のほうからお答えさせていただきます。防災無線の音の届き具合というところで、いろいろとご指摘いただいているもので、やはり屋外、風向きの問題ですとか、特に北海道って、非常に機密性の高い住宅になっているのもあって、完全に音を届けるというのがなかなか難しい問題だとは思っています。ただ、そういう中でも、できるだけ音が届くように、昨年度もチャイム音の改良ですとか、いろいろと改善はさせていただいておりますけども、なかなか難しい問題というのが正直なところであります。

そして、今この防災無線の屋外スピーカーと同じ情報が受け取れる方法として、実は、大きく2つございます。1つは、先ほど■■■さんがお話になった戸別受信機という専用の機械、これを通じて音を聞くという方法。それから、もう一つは、苫小牧市のほうで登録制の防災メールというものをつくっております。これに登録いただきますと、これは文字情報になりますけども、この防災無線で流している同じ内容が目で見れるということになっておりますので、苫小牧市では、その2つの取組を示させていただいております。この戸別受信機については、先ほど■■■さんからお話あったとおり、3,000円で、単価は高いものなんですけども、極力負担を少なくしようと思った中では3,000円でお渡しをしておりますので、これについては、当面このまま続けさせていた

だきたいというふうに思っておりますけれども、もしも、もう一つ、戸別受信機を配る方法として、いわゆる災害弱者の方、ご高齢の方ですとか障害をお持ちの方、介護状態の高い方、結構こういう方の場合には、携帯電話ですとかスマートフォン使えない方もいらっしゃいますので、そういった方には、一応我々のほうで名簿登録をして、無料でお渡しするというのもやっておりますので、もしも、ちょっとそんな情報もありましたら、我々も個別に対応するなどございますので、もし個別の状況がお分かりになれば、情報提供いただいて、個別の対応もさせていただきたいというふうに考えております。以上です。

◎**環境生活課副主幹** 鹿の事故のお話をさせていただいている、環境生活課の高坂です。先ほどお話ありました、やはり苦東厚真火力発電所に向かう道路、非常に、確かに多い道路となります。草刈りの部分につきましても、新たに予算をつけて実施してるんですけども、ちょっとさすがに全部のあの距離全てをやるというのは、確かに予算上厳しいところもあります。ただ、かといって草刈りが無駄にならないように、それだけではなく、例えば注意喚起する看板ですとか、そういったことと抱き合わせながら、様々な対策、人側のほうの注意もして注意喚起も流しながら、極力この地区の鹿による交通事故を1件でも減らせるような対策というのを講じてまいりたいというふうに考えてございますので、よろしく願いいたします。

○**司会** よろしいでしょうか。

◆**市民** はい。

○**司会** それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆**市民** 自治会の■■■■といます。勇払には、歯医者さんが6月まであったんですけど、なくなりました。それから、日本製紙さんがあったときには、日本製紙の診療所というものはあったんですが、そこもなくなりました。ぜひ勇払にも、せめて今まであった歯医者さんや、こういう規模の小さい病院でもいいですから、呼んでほしいなと思います。今は、私は車に乗って幾らでも行けますけど、たまに年配の方、ちょっと車に乗せてあげたりするんですけど、やはりバス時間もあったりするので、こちらのほうの面も、そっちのほう、よく分からないんですけど、もう少し時間の関係とか何とかしてあげてほしいなと思います。以上です。

○**司会** ありがとうございます。勇払の歯医者さんや診療所がなくなってしまったことについてのご意見、要望いただきましたので、市のほうから回答お願いいたします。

◎**まちづくり推進課長** まちづくり推進課の前田です。お世話になっております。よろしくお願ひします。今の診療所と歯医者さんの関係なんですけども、もともと令和2年だったと思うんですが、日本製紙さんの診療所がなくなった後に、地域の方が当然お困りになるというところでした、当時、我々のほうにも自治会さんと代表してお話しさせていただいた経過もあるんですけども、なかなか市のほうで医療施設を呼ぶというところはなかなか難しいかなというところでした。我々のほうとしては、ただ、通う場所が制限されてしまう中で、例えばバスのほうで、希望の場所に時間が融通利かされるのかどうかというところも検討させていただいたりですとか。あとは、これからの検討にはなっていくんですけども、医師会さんですとかと協議している中で、診療所を持つ

てくることはちょっとなかなか難しいのかもしれませんが、例えば全国的な例でいけば、看護師さんをワンボックスの車で地域に派遣して、中心市街にあるお医者さんと、例えばテレビ電話みたいなのを通じながら診察してもらうような事例も、全国的にはあるようなんです。ただ、それが苫小牧にそのまま持ってこれるかどうかというのは、まさにこれからの検討になっていくと思いますけども、そういういろんな新しい技術も使いながら、検討していているというところも併せてやっております。

あと、一昨年からになると思うんですけども、社会福祉協議会さんのほうで、使われる方等に限定される部分もあるかと思うんですけども、医療機関への送迎サービスというところも併せて始まっている部分もありますので、なかなか抜本的な対策というところは難しいかとは思いますが、様々な取組で限界は当然あるかとは思いますが、それに対応を続けていくというところが、まずやれるところかなというふうに思っています。

ただ、当然それだけではなくて、今後も、今お話あったように歯医者さんがなくなったというところもあって、なかなかさっきおっしゃった、お話したように、病院を連れてくるというところは、なかなか簡単ではないと思うんですけども。我々、行政のほうでできる範囲がもしあるのであれば、そこはちょっとお声を聞きながら、やはり医師会さんとの話というところになってくる部分もあると思いますけども。そういうところは、市の内部でも情報共有して、できる対応をちょっと考えていきたいというのが、今お話しできるのはそのぐらいのお話になってしまうというところをご理解いただければと思います。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。それでは、お時間となりましたので、これで意見交換のほうを終了させていただきます。最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 それでは、大変限られた時間でありましたが、テーマプレゼン聞いていただき、あるいは、いろんなご意見等々を頂戴することができました。すぐできることはしっかりと採用していきたいと思いますが、これ、苫小牧市長になって初めてだったんですが、まちかどミーティングの順番をもっと早くしてという、■■■■さんの。もし結構、気温が暖かい時期でもいいのであればあれなんですけど、結構もっと涼しくなってからやってくれという町内会さんも多くて、町内会と協議しながら順番を決めて、日程も決めてますので、もし勇払地区でももう少し順番早めてというご意見があるのであれば、来年度、そういうことは幾らでも可能ですので、それぞれ各町内会と相談しながら日程決めてるものですから、それはしっかりと頭に入れておきます。

あと、■■■■さんの負担軽減のためにも、できる限りしっかりとやっていきたいと思っています。

◆市民 ありがとうございます。

◎市長 鹿も、5年前にうちの庭も全部やられたんです。そのときは、すごい頭に来てたんですが、フェンス張って、それ以降入らなくなりました。北側の住宅街がみんなそれぞれ対策やるものだから、みんな南に来るんですね。そういう意味では、北側に住んでいる身として、ご迷惑かけてるなというふうにも思います。それやこれや、何か日頃気になることがあったら、自治会の会長

さんにでも届けていただいて、我々のほうに、できることはすぐやりますし、できないことについてはご相談もさせていただくこともあるかと思いますが、しっかりと対応していきたいと思しますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

最後になります。コロナも大分落ち着いてきました。入院患者さんも少ない現状ですが、もう少しの間、お一人お一人が感染対策、気をつけていただく必要があると思ひますし、二、三日前のテレビで12月ぐらいに第八波が来るといふ専門家の意見もありますので、決して油断せずにお一人お一人の対策、できる範囲でやっていただきますようお願ひを申し上げまして、最後のご挨拶に代えさせていただきます。今日はありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。ご帰宅後には手洗ひ、うがいを徹底していただきますようお願ひいたします。本日は、誠にありがとうございました。